

2023年度(令和5年度)

## 夏休みにおすすめする本

選定 北海道学校図書館協会

選定協力 札幌市学校図書館協議会

	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
<b>幼児</b>				
1		<b>ぼくとクッキーの なかなおり</b>  かさい まり/作・絵  978-4-86549-293-4	ひさかた チャイルド  2023.2 1,430円	ぼくとクッキーはとっても仲良しだけど、今日けんかをしてしまった。一緒に遊ばない、絶対遊ばない。だけどどうしよう、どうしよう… 子どもの心に寄り添う一冊。  仲良しのともだちとけんかした！ どうしよう、仲直りできるかな……。誰もが経験するもどかしい気持ちを、短い言葉と美しい絵で綴ります。
2		<b>ねこはわたしの まねばかり</b>  クオン・ユンドク/作 キム・ファン/訳  978-4-251-09963-1	あかね書房  2023.4 1,760円	うちの猫は、わたしのまねばかり。でも今日からは、わたしが猫のまねをするんだ。猫のように体をふくらませ、勇気を出して外に出よう。  学校に行って帰ってくると、家には誰もいません。一日中たいてつです。でも、もう大丈夫。ある日、ねこが家にやって来たんです。ねこ好き必見！ 女の子のまねばかりするねこの姿がユニークで温かい！ そして、一歩踏み出す、小さな勇気も描かれています。韓国を代表する絵本作家のひとり、クオン・ユンドクが手がけた、美しく可愛い絵本です。
3		<b>ニンジンジン</b>  キューライス/作  978-4-592-76318-5	白泉社  2023.3 1,430円	ふしぎな生き物ニンジンジンをつかまえようと、ウサギたちは悪戦苦闘。でも、ニンジンジンはつかまりません。ニンジンウォークがキュート！  にんじんの形をして不思議な生きもの、ニンジンジン。そのニンジンジンを食べるために追いかける、2匹のウサギたち。ウサギはいろいろな方法でニンジンジンを捕まえようとするが、ニンジンジンは華麗に逃れていく！ ニンジンジンは捕まるのか！？口ずさみたくなる七五調は、読み聞かせにもぴったりです。
4		<b>にらめっこしましょ むっしっし ひかるむしたち</b>  よこた いくこ/文 よこた きょうご/絵  978-4-909095-33-6	金木犀舎  2023.5 1,650円	むっしっしシリーズ3作目。ぴかぴかきらきら光る虫ばかりが登場。モノクロの顔のどアップから、カラフルな全身の絵まで、感嘆の声が上がりそう。  虫ってどんな顔をしているか知ってる？顔だけ見るとすごかっこよかったり、かわいかったり、怖かったり、発見がいっぱいあるよ。 「にらめっこしましょ、あつぷが」じゃなくて「むっしっし！」 大きく描かれた顔を見て、どの虫かあててね！ ぴかぴかきらきら光る虫がたくさん出てくるよ！
5		<b>やさいのはな なんのはな？</b>  宮崎 祥子/構成・文 網野 文絵/写真  978-4-265-83151-7	岩崎書店  2023.5 1,540円	いつも食べている野菜の花に焦点を当てた科学写真絵本。何の花なのか、どの部分を食べているのか、知る楽しさに出会えるクイズ形式が面白い。  お星さまみたいな 黄色い 花。ラッパみたいな 花。野菜の花だよ、なんの花？ いつも 食べている 野菜は、どの「部分」を 食べている？科学の目で見ると、不思議がいっぱい！知る 楽しさに出会える クイズ形式の認識絵本。
<b>小学校・低学年</b>				
1		<b>それよりこわい</b>  村中 李衣/作 近藤 薫美子/作  978-4-333-02898-6	佼成出版社  2023.5 1,540円	今日の先生こわかったね。いやいや、それよりこわいのは…子どもが考えるこわいものが連想ゲームのように次々と思い出される。でも友達がいれば…こわいに負けない。  学校の帰り道、2人の男の子が「こわいもの」を言い合っています。病院の屋上。ドアが開かないエレベーター。それよりもっとこわいのは――？ 自分の頭の中にあるものが、いちばん怖い。想像力を刺激する絵本です。
2		<b>しめしめ</b>  丸山 誠司/作  978-4-89572-139-4	光村教育図書  2023.4 1,540円	しめしめと食べたのは、誰でしょうか。次々に登場する動物たちと意外な展開に目が釘付けになる絵本。  ハチをカエルが、カエルを蛇が、蛇をハゲタカが、ハゲタカをティラノサウルスが、ティラノサウルスを鬼が「しめしめ たべちゃうぞ」。さあ大変、みんな「にげる にげる」の大騒ぎ！ さて、食べたのは、食べられたのは、誰？ くり返しと、進んで戻る展開、ブラックユーモアのオチがおもしろい幼児向けの絵本です。原画を木の板に描き、木目の背景が土のにおいや風の音までも感じさせる、生命力あふれる絵本。読み聞かせにぴったり！
3		<b>こどものつぶやきセレクション 一年一組 せんせいあのね</b>  鹿島 和夫/選 ヨシタケ シンスケ/絵  978-4-652-20548-8	理論社  2023.5 1,650円	あの『一年一組 せんせいあのね』鹿島和夫の名著が、ヨシタケ シンスケの絵で甦った。～きかせて 大人じゃわからない このせかいのこと(帯より)～  “あのね帳”から生まれた、かろやかで、ふかかく、のびやかで、こまやかな、一年生のことばたち。鹿島和夫と担任した小学校一年生たちとの、いわば交換日記であった「あのね帳」からセレクト。笑いをさそうもの、胸をうつもの…こどもたちから生まれた生のことばがヨシタケシンスケの絵とタグを組み、新たに心をゆさぶる。

4		<b>からだ たんけん れっしゃ</b> 濱田 真理/文 大橋 慶子/絵 清水 俊明/監修 978-4-330-00123-4	交通新聞社 2023.1 1,540円	男の子が自分の食べた物を乗せた列車に乗って、体の中を大冒険。ジェットコースターのように急降下する食道トンネルなど、楽しく消化の仕組みが分かる絵本。 口の中を出発した列車は、「食道トンネル」を急降下して「胃袋駅」へ。食事の大切さ、消化の仕組みが楽しく分かる！小児科医の監修のもと制作した、楽しみながら体の仕組みや食事の大切さが分かる絵本です。「お口に入ったごはんは、どこに行くんだろう？」男の子が不思議な列車に乗って、自分の体の中を大冒険。ジェットコースターのような「食道トンネル」や、長い長い「小腸線」、そして細菌同士の戦いが繰り返されている「大腸本線」など、スリル満載の列車旅をお楽しみください。
5		<b>どうして かわいの？</b> フラン・ピンタデーラ/文 アナ・センデル/絵 星野 由美/訳 978-4-03-328660-0	偕成社 2023.2 1,980円	「怖いと思ったことある？」マックスの問いに、お父さんはいくつもの「怖い」について話してくれた。「怖い」についてあらためて考え、知ることができると。 雷の後、停電で家の中が真っ暗になりました。お父さんがろうそくに火を灯したとき、マックスはたずねました。「お父さん、怖いと思ったことある？」「誰でもこわいって思うことはあるよ」と、お父さんは、いくつもの「こわい」について話してくれました。知らないことをこわいって感じたり、激しい言葉が突きささっておびえることもある、どうしようもなくこわくなったり、自由になるのがこわいこともある、硬い殻を身につけて、こわくないふりをしている人も……でも、お父さんは、最後にマックスに希望を伝えてくれます。
6		<b>ぼくってステキ？</b> ファン・インチャン/文 イ・ミョンエ/絵 おおたけ きよみ/訳 978-4-89572-136-3	光村教育図書 2023.2 1,540円	「すてき……」って、となりの席のキム・ギョンヒに突然言われたばく。ドキドキキッ。気持ちはふくらむ。次の日「すてき」な正体がわかった。ああ、これが。ステキは気分がいい。 なんだかむずむずすぐぐたい。こんな気分は初めてだった。もしかして…ぼくのこと、好きなのかな？授業中、隣の席の女子が「すてき」と、つぶやいた。え、それって、ぼくのこと！思春期一歩手前の男子の気持ちを生き生きと描く。
7		<b>かせい</b> <b>ちきゅうのみなさん、ようこそ！</b> ステイシー・マナカルティエー/原作 ステイビー・ルイス/絵 千葉 茂樹/訳 渡部 潤一/監修 978-4-09-725209-2	小学館 2023.2 1,650円	夜空に赤かがやく火星。わたしたち地球のおとなりさん。そんな「かせい」に興味広がる一冊。科学・技術・工学・数学 自分で考える力を育む絵本シリーズ最新刊。 世界の国々が探査に乗り出しているお隣の惑星・火星。山もある、谷もある、水も酸素もある、地球に似ている火星を、火星本人が分かりやすく案内します。巻末に、火星と地球を比べたクイズや、火星探査の歴史も掲載。
8		<b>夜をまもる騎士 アウル</b> クリストファー・デニス/作 中井 はるの/訳 978-4-7598-2274-8	化学同人 2023.2 2,420円	卵からかえったその日から、ふくろうのアウルには夢があった。「騎士になりたい」。そして、とうとう騎士になったけれど、色々な事が起こる。「アウルがんばって！」と、共感が生まれる作品。 フクロウのアウルには、ずっと夢がありました。勇敢で、賢くて、たくさんの友だちがいる騎士になること。ある日、お城から騎士たちが次々と姿を消すようになり、騎士の学校は、新しい騎士を募集します。みごと合格したアウルは、得意な夜の見張りをまかせられますが…。
9		<b>たべて うんこして ねる</b> はらぺこめがね/作・絵 978-4-265-08190-5	岩崎書店 2023.3 1,650円	たべて、うんこして、ねる。食と人をテーマに創作活動を続ける夫婦ユニットはらぺこめがねが、コロナ禍中に見つめ直した愛おしい日々の営み。兄妹の成長と共に描く。 はらぺこめがねは、「食と人」をテーマに創作活動をしている夫婦ユニット。夫の原田しんやさんが食べ物の絵を描き、妻の関かおりさんがそれ以外を描いている。見ているだけでヨダレが出る大迫力の絵とヘンテコなお話が人気。「これは、彼らがついに“伝えたいこと”を作品にしたのではないか」。
10		<b>あめが ふってきたよ</b> メアリー・サーフォゾ/文 ケイコ・ナラハシ/絵 木坂 涼/訳 978-4-19-865313-2	徳間書店 2023.5 1,870円	雨が降ってくると色々な匂い、音がする。雨の日が楽しくなるような、雨なのに外に出たくなるような1冊。 雨が降ってきました。しめった土の匂い…。耳をすますと、いろんな音が聞こえます。雨が傘に当たる音、犬小屋や物置小屋の屋根をたたく音。車は水をはねかき、道路を走りすぎていきます。滑らかな池の水面を、雨はびちびちとたたきます。かもの母さんの後について、子もたちも泳ぎます。わたしは犬と一緒に雨をあびて思いっきり外を駆けまわったあと、家に入って乾いたタオルで体をふきました。雨の匂いや音…体じゅうで思い切り雨を楽しむ絵本。
<b>小学校・中学年</b>				
1		<b>レイチェル・カーソン物語</b> <b>なぜ鳥は、なくなかったの？</b> ステファニー・ロス・シソン/文・絵 上遠 恵子/監修 おおつか のりこ/訳 978-4-86706-040-7	西村書店 2022.10 1,815円	「沈黙の春」を書いて環境保護に大きな影響を与えたレイチェル・カーソンの伝記絵本。 世界的ベストセラー『沈黙の春』を書いて環境保護運動に大きな影響を与えたレイチェル・カーソン(1907-1964)。小さなレイチェルは目をこらし、耳をすませました。鳥のさえずり、虫の羽音。自然のリズムのなかで暮らしていました。ある時、鳥が歌うのをやめ、自然が声を失いはじめたことに気がつきました。いったいなぜ？ 誰のせい？
2		<b>わたしたちの歌をうたって</b> 堀 直子/作 alma/絵 978-4-580-82549-9	文研出版 2022.10 1,430円	二学期の初日「詩音」という子が転校してきた。しかも「短歌」で自己紹介をする「へんな子」。その詩音が、おべんとう屋の配達で、わたし「なずな」の家にやってきた。 二学期の初日、うちのクラスに転校生がやってきた。チョークをにぎるなり、黒板に書いた自己紹介は初めてみる「短歌」だった！短歌で自己紹介？「へんな子」だけど、きらきらまぶしく見えるその子の名前は「詩音」。その詩音が弁当の配達で我が家にやってきた！？

3		<b>野鳥のレストラン</b> 森下 英美子/文 新開 孝/写真 978-4-87981-765-5	少年写真 新聞社 2022.11 1,980円	人間にとって身近な鳥たちは、いつも腹ペコ。「木の実のレストラン」「街中レストラン」「水場レストラン」など、どんな物をどんな風に食べているのか、分かり易い説明の写真絵本。 野鳥は何を食べているの？ 木の实や草の実！ 花も食べてた？ 虫を食べるよ。魚も捕るんだ。パンが好きだよ。小鳥を襲っていたよ…まだまだ出てきそう。木の上や草むら、水辺や街中など、あちこちで開店する野鳥のレストランで、その答えを探してみよう！
4		<b>なかまカナ？</b> 新井 爽月/作 浅沼 とおる/絵 978-4-577-05072-9	フレーベル館 2023.1 1,430円	アメリカから来た転校生の武藤トムは「回文」大好きなヘンなやつだった。主人公の陸とおさななじみの池ちゃんと3人で回文トリオを結成して…。回文がつなく友情の物語。 アメリカから来た転校生・武藤トムは「回文」大好きなヘンなやつ！主人公のりく、おさななじみの池ちゃんは、トムと「回文トリオ」を結成して…。上から読んで下から読んでもおもしろい、回文がつなく物語！
5		<b>晴さんのにぎりずし</b> 佐川 芳枝/作 かわい ちひろ/絵 978-4-333-02891-7	佼成出版社 2023.1 1,540円	久絵の家は「おすし屋」さん。ちょっとした誤解からクラスでいじめられるようになってしまう。そんなとき女性すし職人の晴さんが、お店の手伝いにやってくる。 私の家はおすし屋さん。お店を手伝うのは嫌いじゃないけど、私はおすし屋さんじゃなくて「ふつうの会社員」になりたいなって思ってる。そんなわが家に、ある日お店を手伝ってくれる女性のすし職人さんがやってきて……。
6		<b>みーつけた！ 生きものからの挑戦状 夏の生きものをさがせ！</b> 中野 富美子/構成・文 飯村 茂樹/企画・写真 978-4-593-10387-4	ほるぷ出版 2023.2 3,080円	身の回りにこっそり隠れている生き物からの挑戦状。 夏の自然の中に隠れている生き物を探してみよう。 みなさんの家や学校のまわり、公園や水辺、森や林には、どんな生きものがいますか？とても見つけやすいものもありますが、なかなか見つけられないものもありますね。この本では、そんな見つけにくいところに、こっそりいる生きものが、みなさんに「見つけてごらん！」と挑戦状を送っています。本の中で、その生きものを見つけたら、「え？！こんなところに？！」とびっくりするかもしれません。さあ、夏の自然の中にかくされている生き物を探してみましょう！
7		<b>つながるいのち うみ・もり・ひとの物語</b> 松本 紀生/著 978-4-316-80507-8	教育出版 2023.3 2,090円	サケ、クマ、オオカミ、シャチ、クジラ…川から海へ、森から海へ。つながり合い支え合う自然界の中で人間にできることは何か？と問いかける写真絵本。 つながり合い、支え合う自然界。人間も、その一員になれるはずです。サケ、クマ、カモメ、ヤマアラシ、ハクトウフシ、オオアオサギ、オオカミ、ラッコ、トド、シャチ、パフィン、ザトウクジラ…川から森へ、森から海へ。つながり合い、支え合う自然界。では、人間はどうでしょう。アラスカの美しい自然と生き物たちの写真が、私たちにできることは何かを問いかけてくれるような写真絵本です。
8		<b>オオムラサキと里山の一年 夏の雑木林にかがやく、日本の国蝶</b> 筒井 学/写真・文 978-4-09-725163-7	小学館 2022.7 1,430円	オオムラサキは、豊かなシンボル。オオムラサキの雄大な姿を見てほしい、自然環境の大切さを感じてほしいという願いが伝わってくる。 小学館の図鑑 NEO の科学絵本シリーズ。 素晴らしい日本の自然「里山」。自然が豊かな、里山の雑木林でしか出会えない、大きくて美しいチョウがいます。オオムラサキは、日本の国蝶にも指定され、雑木林を代表するチョウですが、美しい成虫たちの命は一瞬の夏とともに尽きてしまいます。オオムラサキの一生を通して、素晴らしい日本の自然「里山」を考える写真絵本です。
9		<b>リレー選手になりたい</b> 新井 けいこ/作 宮尾 和孝/絵 978-4-580-82533-8	文研出版 2023.1 1,430円	選考会でリレー選手に選ばれた流星と、学年で一番足が速いが怪めで選考会を欠場した勇斗。二人ともリレー選手になりたい。さてどうなるか。 走る練習を始めて、クラスの選考会でリレー選手に選ばれた流星。学年で一番足が速く、毎年リレー選手に選ばれていたが、けがで選考会を欠場した勇斗。リレー選手を選考会の結果で選ぶか、経験と実績で選ぶか、クラスで話し合うがなかなか決まらない。二人ともリレー選手になりたい…。
10		<b>おばあちゃんのにわ</b> ドーン・ケイシー/文 ジェシカ・コートニー・ティックル/絵 横山 和江/訳 978-4-910815-11-4	出版ワークス 2023.5 1,760円	主人公の「わたし」は、自然の美しいおばあちゃんの「にわ」を訪れ、生き物や草花を楽しむ。季節と共に「にわ」も変化していく。命の営みを感じる本。 自然が美しい、おばあちゃんの庭。「わたし」は、お母さんと庭を訪れ、生き物や草花を楽しみます。季節は巡り、庭は変わっていきます。大きな命のめぐりについて、庭をテーマに感じる絵本。
<b>小学校・高学年</b>				
1		<b>ガリバーのむすこ</b> マイケル・モーパゴ/作 杉田 七重/訳 978-4-09-290646-4	小学館 2022.12 1,650円	海に投げ出された難民少年オマールが目覚めるとガリバーが流れついた島だった。ガリバーのむすこと呼ばれ次第に小人の世界になじんでいく…。離れ離れになったお母さんと会いたい気持ちと島に残りたい気持ちの中でゆれ動く少年の物語。 難民少年が見つけた幸せとは？ もうだめだ。刻一刻とボートは海に沈んでいく。ひとり、またひとりと、ボートから海に投げ出されて、まもなく自分の番が来る。一海に投げ出された難民少年オマールが、目をさましてみるとそこは、ガリバーが流れついた小人の国リリパット国だった。とにかく、ほくは生きている！

2		<b>金色の約束</b> 松本 聡美/作 黒須 高嶺/絵 978-4-337-33656-8	国土社 2022.11 1,540円	近所のおじいちゃんが亡くなった。それと同時に光輝のもとにがぼんが届いた。おじいちゃんとの約束だった砂金採りグッズ一式だった。おじいちゃん子どもたちの心温まる物語。 大の仲良しだった光輝と智彦は、ある出来事依頼、今では学校で会っても知らんふりだ。そんなときに、よくいっしょに遊びに行っていたあずま屋のじいちゃんから砂金採りグッズ一式と、手書きの地図を託される。地図を読み、力をあわせて目的地へ向かうなかで、互いの良さを認め合い、新たな友情を約束し、それぞれの道へ出発する。
3		<b>わたしは反対！</b> <b>社会をかえたアメリカ最高裁判事</b> <b>ルース・ベイダー・ギンズバーグ</b> デビー・リヴィ/文 エリザベス・バドリー/絵 さくま ゆみこ/訳 978-4-86412-226-9	こどもの未来社 2022.11 1,980円	1930年～1970年代のアメリカでは、男性と女性の役割が社会的に決まっていた時代だった。そのことに納得できなかったルースは、小さな頃から声を挙げ、少しずつ社会を変えていった。 わたしは反対！それは、おかしい！まったく賛成できない！意見のちがいがから、世界をかえることもできます。ルース・ベイダー・ギンズバーグは、人生を通して、最高裁判事のひとりとして、納得できないことに声を挙げ続けることで、少しずつ社会を変えていきました。RBGを幼少期から活き活きと描いた伝記絵本！
4		<b>そらのゆうびん屋さん</b> くまくら 珠美/作 978-4-652-20523-5	理論社 2022.11 1,595円	空と下界とを行き来して、大切な人の大事な想いを届けている「そらのゆうびん屋さん」。今日も 空では郵便が届くのをまっています。優しい気持ちになれる1冊。 下界を旅立ったひとが憩う「そらのきつさてん」にやってきたのは郵便屋さん。下界と空とを行き来して、大切なお届け物を運びます。歌がふきこまれた貝殻、首輪についていた思い出のプレート…。どれもに想いがこもっています。
5		<b>エツコさん</b> 昼田 弥子/作 光用 千春/絵 978-4-7520-1021-0	アリス館 2022.12 1,540円	認知症を患うおばあちゃんのエツコさんと家族の日常を描いた短編集。誰も忘れることはある。忘れることは悪いことではないと思わせてくれる。心が温かくなる物語。 友達の家に向かうとちゅう迷子になって、前を歩くおばあさんに声をかけた、樹(たつき)。あれ、このおばあさん、エツコ先生とよばれていた、認知症のおばあさんだ…。エツコさんと5人の小学生の、少し不思議で幸せに満ちた「記憶」をめぐる連作短編集。
6		<b>海よ光れ！</b> <b>3・11被災者を励ました学校新聞</b> 田沢 五月/文 978-4-337-31013-1	国土社 2023.1 1,540円	東日本大震災後、避難所となった小学校で「自分たちにもできることがある」と作った学校新聞が、地域の人々に力を与える！前向きな気持ちになれるノンフィクション。 東日本大震災の避難所となった小学校で、被災者といっしょに寝泊まりしていた子どもたち。何を感じ、そして自分たちに何ができるのかを考え取り組んだこととは…。子どもたちの思いをつがさに伝える感動のノンフィクション。
7		<b>ペンタとニック</b> 風野 潮/作 吉田 尚令/絵 978-4-580-82568-0	文研出版 2023.3 1,540円	妊娠しているお母さんが入院した。それと同時にネコがいなくなった。そんな中ふとした時から頭の中で聞こえる声に気がついた。その声に励まされ新たな命と向き合っていく。 飼うネコのニックがいなくなった！ただのネコやない、ぼくの大切な友だちなんや。もし事故があったり、よそのネコとケンカしたりして、大ケガしてどっかで動けんようになってたらどうしよう。そや。「こんなネコをさがしています」って、似顔絵入りのポスターを作ったらどやろ？作りはじめたけど、何枚描いても似てへんねんなあー。
8		<b>せんそうがおわるまで、</b> <b>あと2分</b> ジャック・ゴールドスティン/作 長友 恵子/訳 978-4-7726-1528-0	合同出版 2023.4 1,980円	ジュールとジムは 2 分差で生まれた親友、そんな二人は何をするのも、ずっと一緒だった。やがて時は戦争へ。二人は一緒に兵隊となる。優しいタッチで描かれる平和について考える絵本。 ジュールとジムは、同じ日に同じ村で生まれた幼なじみ。ジュールより2分早く生まれたジムは、いつもジュールより速く、強く生きてきました。第一次世界大戦がはじまり、2人は兵隊に行きます。しかし戦場は壮大で輝かしいものではなく、泥まみれでみじめなものでした。いよいよ戦争をおわらせることは決まりましたが、11月11日11時、その時までジュールとジムは戦場へ出向くことを命じられます。そして――実際の出来事から着想を得て作られた、シンプルなメッセージが深く心に残る絵本です。
9		<b>なんてくさいんだ！</b> <b>ロンドンを救ったジョゼフの物語</b> コリーン・ペフ/文 ナンシー・カーバンター/絵 金原 瑞人/訳 978-4-86702-065-4	あかつき教育図書 2023.3 1,980円	1858年、ロンドンのテムズ川は、汚染され、ひどい匂いを放ち数年に一度コレラが発生していた。この汚れた水とコレラの関係は？水質汚染の現状とこれからのことを考える絵本。SDGs 学習の導入にもおすすめ。 「くさくてくさくてたまらない！」この匂いは、なにかから発生しているのでしょうか？こたえは、うんち。川がうんちでいっぱいになっていたのです。しかし、問題は匂いだけではありません。数年に一度、コレラが発生し、何千人もの人びとが亡くなっていたのです。この汚れた水とコレラには、何か関係があるのでしょうか？テムズ川をきれいにするために新しい下水道システムを作りあげた年月を、生きいきと書き出した歴史絵本。
10		<b>夏に、ネコをさがして</b> 西田 俊也/作 978-4-19-865640-9	徳間書店 2023.5 1,870円	亡くなったおばあちゃんの家へ越してきた6年生の佳斗。すっかり顔を出さなくなったネコを探して、新しい町、人、友人と出会いなじんてゆく夏物語。 七月の終わり、6年生の佳斗は、亡くなったおばあちゃん住んでいた家に引っ越してきた。おばあちゃんがかわいがっていた外ネコのテンちゃんが、なつてくれたのがうれしかった。でも、テンちゃんはすぐに、家に来なくなってしまった。どうしたんだろう？まだなじみのない住宅地を、探して歩くうちに、蘭というちょっと変わった感じの少年と知り合った。ネコのことをよく知っているらしい。蘭は、「探すのを手伝ってやる」と言ってくれた。やがて…？ネコを探して歩くうちに、亡くなった祖母の思い出に会い、まわりの人々のことを知り、かけがえのない友だちに出会うことになった十二歳の夏。

2023年度(令和5年度)

## 夏休みにおすすめする本

選定 北海道学校図書館協会

選定協力 札幌市学校図書館協議会

	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
<b>中学校</b>				
1		<b>あした、弁当を作る</b> ひこ・田中/著 978-4-06-530595-9	講談社 2023.2 1,540円	母に触れられることをいやだと感じ、母が作ったお弁当にプレッシャーを感じる中学生・タツキ。両親からの自立を描いた作品。  朝。いつものように、母親がぼくの背中に触れる。いつものように「行ってきます」と答えて学校に行けばいい。それなのに寒気がした。昼休み、母親が作ってくれた弁当を開ける。おかずたちが、「おいしく食べて欲しい」とプレッシャーをかけてきて、一気に食欲が落ちる。でも、これはせっかく母親が作ってくれたお弁当。いったい、ぼくはどうなってしまったのだろうか？中学生男子の複雑な自立心をひこ・田中が描く！
2		<b>ウシのゲップを退治しろ</b> 地球温暖化ストップ大作戦 大谷 智通/著 小林 泰男/監修 978-4-8451-1789-5	旬報社 2022.11 1,760円	ウシのゲップに含まれるメタンは二酸化炭素の 25 倍の温室効果！平均 30%削減のカギとなる食べ物は何？  ウシのげっぷで地球の気温が上がっている？地球上に飼育されているウシは15億頭！じつはウシのげっぷの主成分「メタン」は二酸化炭素の28倍の温室効果があるされ、その削減が大きな課題となっています。対策のカギとして日本で発見されたのが、意外なあの食べ物。目からウロコの最新の研究成果を紹介しながら、ウシと人との新しい関係、未来の畜産のすがたを描きます。ウシは悪くない！科学の力で地球温暖化に立ち向かえ！
3		<b>「くうき」が僕らを呑みこむ前に</b> 脱サイレント・マジョリティ 山田 健太/作 たまむら さちこ/作 978-4-652-20540-2	理論社 2023.1 1,430円	「くうき」を読んでばかりいると、いつか大変なことになるかも、と思う本。最後の武器は民主主義！プロフェッサー・ケンタと考える自由のための7章。  すごく貴重な「自由」を享受しているのに気づいていない。自分の頭でしっかり考えていないと、あっという間に失くしてしまうの。生まれたときから身の回り「自由」と「民主主義」について、若い人の身近な日常に即して描く。「言論の自由」専門研究者と絵本作家のコラボレーションによる絵本。謎のイキモノ「くうき」の4コマ付き、プロフェッサー・ケンタによるコラム&解説付き。
4		<b>オリヒメ</b> 人と人をつなぐ分身ロボット 吉藤 オリィ/著 加藤 悦子/文 978-4-86412-227-6	こどもの未来社 2023.1 1,650円	2021年6月21日、日本橋にできた「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」。分身ロボットを操作して働くのは「パイロット」と呼ばれる人たち。そのロボットを作った吉藤さんの物語。  なぜ分身ロボットは生まれたの？分身ロボットってどんなロボット？製作した吉藤オリィさんの生い立ちから、写真と文でその軌跡を追います。障害のある人も外出できない人も働ける分身ロボットカフェの誕生秘話も紹介。
5		<b>手で見ると</b> ぼくの世界は 檜崎 茜/作 酒井 以/装画・挿絵 978-4-05-205488-4	くもん出版 2022.11 1,540円	視覚支援学校の中学部にあがった佑には商学部から一緒だった双葉という友だちがいる。彼女はある事件がもとで家から出られなくなる。一方、中学部から友人が増えた佑は、今までと違う考えや経験に気持ちが揺れ動いていく。  ——この光はきっと、みんなにも届いているにちがいない。なぜなら、ここはみんなの世界だから。そして、そこは、双葉たちの世界でもあるのだ。視覚支援学校に通う佑は、この春から中学1年生。新しいクラスメイトも増え、寄宿舎での生活もはじまったが、佑の気持ちは晴れない。小学部から親しくしていた双葉が、ある事件をきっかけに学校に来なくなってしまうからだ。…ふたりの主人公が、それぞれの葛藤を乗り越え、ふたたび世界に踏み出すまでを描いた物語。
6		<b>命のスケッチブック</b> 中谷 加代子/語り 小手鞠 るい/構成・文 978-4-86389-728-1	静山社 2022.11 1,320円	ある事件で娘を亡くした中谷加代子さんが、いろいろな場所で行った講演をもとに作られた。命の大切さ、生きる意味を考えさせる。  命ってなんだろう。生きるって、どういうことだろう。どうすれば、幸せに生きていけるのだろう。本当に大切なものってなんだろう—あなたは どう思いますか？この本は、ある事件で大切な娘を亡くしたおかあさん、中谷加代子さんが、小学校や矯正施設で行った講演をもとにして作られました。
7		<b>パフィン島の灯台守</b> マイケル・モーパーゴ/作 ベンジー・デイヴィス/絵 佐藤 見果夢/訳 978-4-566-01460-2	評論社 2023.2 1,650円	嵐の夜、パフィン島沖で灯台守に命を救われた人々の中に「ぼく」がいた。少年と灯台守のきずなを描いた作品。絵もよい。  嵐の夜、パフィン島沖で、少年は、灯台守に命を助けられました。いつか島にもどりたい…少年と灯台守のきずなは、一羽の鳥をとおして、さらに深まっています。

8		<b>あきらめなかつた男</b> <b>大黒屋光太夫の漂流記</b> 小前 亮/作 おとない ちあき/絵 978-4-86389-677-2	静山社 2023.5 1,760円	鎖国していた江戸時代の日本。国交がなく言葉も通じない状況でロシアに流れ着いた日本人の不屈の冒険譚。 天明二年十二月、「神昌丸」の船頭・光太夫と船乗りたちは伊勢から江戸へ向かう途中で嵐に遭う。半年後、北の孤島に漂着。極寒の地で仲間が次々倒れていく。島に来て四年、自分たちで船を作り島を脱出したが、ロシア本土にたどり着いてもなお帰国の願いは届かない。ついに光太夫は、ロシア帝国女帝エカチェリーナ二世へ直接の嘆願を決意。真冬のシベリア雪原を横断し帝都サンクトペテルブルクへ向かう。
9		<b>へそまがりの魔女</b> 安東 みきえ/文 牧野 千穂/絵 978-4-7520-1030-2	アリス館 2023.4 1,650円	良いことの裏には、悪いこと。魔女と少女の心温まる物語。読後、タイトルの意味について考えさせられる。 暗い森に住む、年老いた呪いの魔女。ある日、人ぎらいのその魔女のもとにひとりの娘がやってきて…。呪うことしかゆるされない魔女と、優しさを知らない少女の、心あたたまる物語
10		<b>さくらももこのことばと人生</b> さくらプロダクション/監修 978-4-591-17672-6	ポプラ社 2023.3 1,760円	著作から生まれた名言や作者の人生のエピソード、著者に関わる資料など、どこから読んでもわかりやすい。 「心を強くする！ビジュアル伝記」シリーズの一作。 静岡の海辺の町に、八百屋さんの次女として生まれたさくらさん。植物や動物、そして絵をかくのが大好きで、マイペースな性格。やがて将来を真剣に考えはじめ、高3で漫画を雑誌に投稿します。漫画とエッセイで人を笑顔にする、さくらももこの23のことばとエピソード。
<b>高等学校</b>				
1		<b>金環日蝕</b> 阿部 暁子/著 978-4-488-02878-7	東京創元社 2022.10 1,980円	ひったくり事件を目撃した大学生の春風は、高校生の錬と犯人を捜すことに！札幌を舞台に特殊詐欺事件の世界と、それに飲み込まれていく若者たちを描く物語。 知人の老女がひったくりに遭う瞬間を目にした大学生の春風は、その場に居合わせた高校生の錬とともに咄嗟に犯人を追ったが、間一髪で取り逃がす。犯人の落とし物に心当たりがあった春風は、ひとりで犯人探しをしようとするが、錬に押し切られて二日間だけの探偵コンビを組むことに。かくして大学で犯人の正体を突き止め、ここですべては終わるはずだった。「本の雑誌」が選ぶ2020年度文庫ベスト10第1位『パラ・スター』の著者が、「犯罪と私たち」を真撃かつ巧緻に描いた力作。
2		<b>三流シェフ</b> 三國 清三/著 978-4-344-04064-9	幻冬舎 2022.12 1,650円	北海道増毛町の貧しい漁師の子として生まれ、中卒で社会へ出た少年は、後年、世界的なフランス料理のシェフとなった。夢のために、がむしゃらにつき進んだ圧倒的生き様の自伝。 雑用こそ人生の突破口だ。誰より苦労しても、その苦労を見ている人は1%にも満たない。それでも「世界のミクニ」は必死に鍋を磨き続けた。何者かになるうとして、懸命にもがく人たちへ。料理界のカリスマ・三國シェフ、感涙の自伝。
3		<b>スラムダンク奨学生インタビュー その先の世界へ</b> 宮地 陽子・伊藤 亮/著 並里 成ほか/述 978-4-08-790101-6	集英社 2023.1 1,815円	『SLAM DUNK』の作者による奨学金で夢をつかむために海を渡った14人の挑戦の物語。挑戦することの価値を彼らの言葉や姿が教えてくれる。 『SLAM DUNK』の作者、井上雄彦氏の「バスケットボールというスポーツに恩返しをしたい」という志から始まったスラムダンク奨学金。大好きなバスケットボールで夢をつかもうとする若者をアメリカのプレップスクールに派遣してきた。そのうちの14名にアメリカ留学時の経験についてインタビュー。その経験談には様々な苦悩、葛藤、そして、挑戦した者にしか味わうことのできない喜びが溢れていた。困難を克服し人生を楽しむためのヒントが凝縮された、新たな一歩を踏み出そうとする全ての人に贈る一冊。
4		<b>人類三千年の幸福論</b> <b>ニコル・クーリッジ・ルマニエールとの対話</b> ヤマザキ マリ/著 ニコール・クーリッジ・ルマニエール/述 978-4-08-771819-5	集英社 2023.5 1,760円	大英博物館「マンガ展」担当のキュレーター・美術家との人類の幸福についての対話。歴史上、何度も繰り返される問題について、縦横無尽に好奇心全開で語り尽くす。 人類はいつの時代も同じ物語を生きている。繰り返されるパンデミック、戦争、格差社会…。先人たちはどう乗り越えた、あるいは、乗り越えられなかったのか？歴史をひもときながら、現代を明るく生きるヒントを探る。大英博物館「マンガ展」キュレーター・美術家との10時間に及ぶ熱血対談を収録！
5		<b>DEEP LIFE</b> <b>海底下 生命圏</b> <b>生命存在の限界はどこにあるのか</b> 稲垣 史生/著 978-4-06-531933-8	講談社 2023.5 1,210円	これまで生命が存在しないと考えられていた「海底地下の世界」。しかし、そこには地上をはるかに超える豊かな「生命圏」が広がっていることが分かった。微生物の生命維持の限界はどこに？ ブルーバックス これまで生命は存在しないとされていた地下深部の世界。しかし、海底堆積層から膨大な数の微生物が発見された。海底下1000メートル以上、数千万年の時を経た、極限的な地質環境に生息する微生物たち。生命の限界、そして生命存在の謎に挑む海洋科学掘削調査、最前線の研究を紹介します。